

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館(2ユニット合同)		
所在地	静岡県清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成27年8月11日	評価結果市町村受理日	平成27年10月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosvoCd=2274202528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一階に併設しているデイサービスセンターとの部署連携で日々の体操や合同企画の実施をし、利用者・職員相互の交流が図れている。
栄養課職員による調理で栄養バランスに配慮した食事提供が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

階下にあるデイサービスとの合同企画は月1回の頻度でおこない、最近では流しソーメンを30名余で堪能しました。大勢で愉しめることから、西瓜割や餅つき等昔ながらの季節行事を旨としています。数年前からの組織再編成もあり、事業所では現状若い職員が増えています。人生経験とともに職業実績が満たないことで自発的な気づきが少ないという課題もある一方で、今後に期待が膨らむプラス面もあります。新管理者も若いことからフラットな立位置から自由に発言できる状況にあり、法人の職員行動指針の下、人の和をもった推進が可能となり、運営推進会議内での勉強会や献立作成の一元化といった新たな取組みが始まっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の下、職員行動指針「私たちは地域住民に親しまれ信頼されて地域で持続発展する施設づくりを目指します」を捉え、運営推進会議開催の他、広報誌配布、ボランティア受け入れ等行う。	理念を唱和するだけでなく、前日の地域交流事例を交えながらの発表もおこなわれています。「地域住民に親しまれ信頼されて地域で持続発展する施設づくり」との方針は、「地域の人が集う運営推進会議で職員が講師を務める」という発展をみせています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事、祭りへの参加、散歩での交流、買い物、外出企画の実施。	近隣の子ども園から20名前後の訪問があり、愛らしい声が響き合う事も定例となっています。セブンイレブンでの買い物では店長に顔を覚えてもらっていたことから、一人で外出してしまったときに声をかけてくださり送り届けてもらった例もあります。	デイサービスとの共同企画では季節行事を愉しめることもあり、また御所の食事が秀逸なことも含み、地域の独居高齢者が輪に加わるような取組みを更なる向上点として期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度運営推進会議にて認知症についての勉強会実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組み状況の報告を行い、地域の方からアドバイスして頂き、会議・委員会等でチームメンバーと情報共有する。	デイサービスからの参加もあり一体化した取組みがみられます。職員が始めた講習では、ノロウイルスの処置における防護服パフォーマンスに反応がよかったため、今後はビジュアル化や参画型プログラムへの研鑽を予定しています。	欠席者にも報告書を届けるなどして、メンバー意識を醸成することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密ではないが、問題等発生しそうな際は介護保険課に出向き担当者に相談する。	介護保険課に対しては事故対応や苦情の報告をおこない、事業所の状態を把握してもらうことに努めています。静岡市の新制度であるボランティア受入れの説明会に来月出向くことを決めており、積極的に活用していく方針です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	4月施設内勉強会、5月法人研修にて身体拘束・虐待について学習する。玄関の施設は夜間帯に夜勤者のみの体制になった際施行。	身体拘束事故対策委員会が運用され、委員が本部研修や会議へ出席して持ち帰った内容は全職員へ周知を図っています。食事は介助も含み利用者と同じテーブルにつく為、リフレッシュのためにも30分はしっかり休憩をとるようにしています。	(退職した職員とのことですが)家族アンケートにはスピーチロックへの進言があったため、一個人の習性ではなく組織としてどうあるかについて改めて検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	4月施設内勉強会、5月法人研修にて身体拘束・虐待について学習する。身体拘束事故対策委員会を中心に虐待防止についての対策協議する。DS相談員との連携の中で地域包括支援センターからの情報収集を密にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	未実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は疑問点の有無を確認しながら行っている。報酬改定説明会にて内容説明行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱の設置。事業所を介さず法人から直接家族宛てにアンケート依頼している。	法人アンケートが年1回あり、結果は貼りだし職員間でも省みる時間をもち、「このようにしていきます」との宣言(結果を受けての改善方針)は家族に郵送しています。口腔が気になる家族に協力し、歯科医の診療訪問が実現した例もあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年度末全体会議にて職員から今年度取り組みたい事の聞き取りをし、事業所目標に反映した。 その他、運営会議、マネジメント会議にて職員の提案等について協議している。	意見がでにくいことへの是正として小グループに分け、また付箋紙をつかったブレインストーミング法を本年から導入しています。早い段階で手立てを打てるようにと月1回程度をめやすに面談を実施し、各職員の個人目標への振り返りも併せておこなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	二カ月に一度、職員面談実施時に個人目標の進捗を確認している。その際挙がった提案については駆る限り即時に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談時にケアの実態について把握し、職員に合わせた研修の提案をする。新入職・中途入職のOJTチェック、経験年数に応じた研修参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外研修にて他事業所職員との横のつながり作りの励行。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に本人のお話や訴えを聞き、ケアプランに反映する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時に家族からのお話を聞き、ケアプランに反映する。契約時・入居時に改めてお話を聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族希望で毎日併設デイサービスの体操に参加したケースあり。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割りを持って頂くよう家事作業にお誘いする。ケアプランにも反映する場合もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子を伝え、家族から入居以前の情報等聞き取る。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の手紙にて本人の様子を家族にお伝えする。病院受診の付き添いを家族に依頼している。年間行事に家族を招き、一緒に過ごして頂く。	2ユニットと1階のデイサービスとの合同行事は毎月あるため顔なじみとなり、年の瀬恒例の餅つきではつく人、声援を送る人、丸める人と自然に役割分担もできています。お祭りやどんど焼きなど、地域行事にも自治会を通じて積極的に足を運んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話できるよう職員が間に入ったり、体操や家事作業で会話をしやすい環境を作る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	レベル低下で入院し退居した方に退院後の受け入れ先を家族と相談したケースあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中の過ごし方をお一人お一人検討中。 意思疎通の取れない方についての思いを引き出す事に課題がある。	家族会は年2〜3回あり、面会でも会話をもちょうにしています。利用者とも寄り添うことを目指しながらも職員の入れ替わりによる若年者の増加の影響で、まだ開拓状態にあります。職員は介護記録ヘブ란の実践チェックを入れています。が、仕組み全体への理解度には課題が残ります	現在の業務改善中心から、その人の暮らしに着目した話し合いに要する時間が増すことで、カンファレンスを通じた職員の成長を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中で聞き取ったり、インタビュー又は家族来訪時に聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課等一緒に行う中で、見ている。申し送り等で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成を中心にモニタリング、課題分析等行なっている。	昨年までは現場の職員が計画作成に携わる機会が少なかったとの反省から、本年度は委員会が課題を抽出して計画原案の作成につなげています。介護記録に目標達成状況の欄があるので、職員は計画にもとづいた介護ができていくか日々確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、申し送りに記入し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスセンターとの複合型の特徴を生かし体操、合同企画等取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族に受診を依頼している。突発的な受診は家族の予定を聞きながら、対応できないようなら事業所でも対応している。契約時に希望の受診先の有無を確認している。	日中は階下のデイサービス常駐の看護師がよく顔をだしてくれ、医療記録簿には看護師のひたむきさが赤ペンとなって表れ、利用者とともに職員も安心の環境にあります。医療保険適用のマッサージを利用していた例も過去にはあり、希望には柔軟に応じています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日にデイサービスの看護師と利用者の状態把握を行い、医療連携体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の病院の外来医師担当一覧表を毎月頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議にて今後のケアについて話し合い、主治医、家族と情報共有する。	契約時にはその重要性の説明とともに看取りについても意向確認の書面を交わしています。本年は状態変化に応じて家族と相談しつつ、医師の指導を仰いで進めたケースが1件ありましたが、救急搬送となったため所内で看取りは起こっていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを整備した。H26年7月普通救命講習受講。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施。近隣住民の方に避難訓練に参加して頂く。H27年7月実施。	昨年度の水害では隣近所との連携について貴重な体験を得ることができました。また、震度4以上の地震では安否コールのメールを職員へ発信する仕組みが法人主導で開始され、有事における事業所機能の確保が担保されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	インテーク情報を元にその方に合った身体介助や言葉かけに配慮し実施する。	こやまケアに係る委員会が核となり、接遇の向上に励んでいます。例えば、車いすの利用者に目線の高さを合わせたり、馴れ馴れしい会話にならないように注意を促しています。トイレ誘導や排泄の確認時には、他の利用者に声が漏れないように、小声で話すようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によって実施状況に差がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤リーダーを中心に食事内容の希望や買い物の希望などに応えられるよう職員配置する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣等その方のこだわりを尊重し支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の栄養課職員が調理している。盛り付けを一緒にする程度。おやつ作りを行う。	副菜のほかデザートもあり、目移りするほど豊富な食材を駆使しています。ゆで時間によって異なる鍋で炊いていたたり、切れ目を入れて食べやすくし、また見た目にも美しく花形カットが成され、大いに愉しめるメニューが提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活向上委員会、栄養課会議等で個別の食形態や水分量への対応を話し合う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っているが、口腔ケアについて課題意識が少ない。勉強会の機会を設けたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活向上委員会にて排泄パターンの把握をして、誘導時間を検討する。	生活向上委員会では、排泄、食事、入浴などの改善に向けて話し合っています。排泄時のパターン把握によって失禁が減ったり、日中布パンツで過ごすことが叶っています。身体介護での負担軽減のため、トイレ内に椅子を用意して腰痛を防ぐ試みもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	離床時間を増やす、体操への参加を促す。個人レベルでの飲食物での便秘改善は行っていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本夕方のお誘いになるが、希望がある時は時間、順番等配慮する。	在宅時の生活習慣を尊重して、夕方の入浴が基本となっています。車いすの人も増え続ける傾向にあり、近年は利用者だけでなく職員の心身負担を軽くすることも課題の一つとしています。移乗に関する話し合いを通じて、双方が楽(ラク)となるような移乗方法へと改良しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中その時々で体調を配慮し、臥床する時間を設ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての知識を身に付けたい。現在は決められた量、時間を守り、服薬ミスが無いように予薬するよう取組み中。追加処方あった際は薬情を頂き把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事支援、趣味、嗜好品などその方によって行って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、外食企画の実施。	ここ数年、1月にはどんど焼き行事で正月のお飾りの焚き上げを眺め、振る舞われた豚汁とお汁粉に舌鼓を打っています。日常的には定まった散歩コースを1対1または2のマンツーマンで15分程度散歩します。回転寿司をはじめとする年数回の外食ツアーも慣例となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望に応じて本人管理で財布を持って頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は家族に電話連絡し、話せるようにする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに利用者が作成した四季折々の作品を飾っている。生活空間としてはフロアが広い為ソファや椅子を設置してつづげる場所を作る。	業務日誌には温度、湿度だけでなく、冷凍庫や冷蔵庫の室温も記録し管理されています。大正ロマンの漂う灯りや置物の演出によってホッコリとした空気が流れる反面、清掃用具や車いすが消火器設置場所の前に置かれていたり、鏡の縁や棚のへりに埃が溜まり、また障子が破れたままだったことは非常に残念です。	照明や棚の裏側をはじめとする普段見えにくい箇所の清掃、物品の置き場所といった5S対策を早期に進めることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置を検討中。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いの家具や慣れ親しんだものを持ち込んでいただく。	暮らしに係る品々が持ち込まれていることを視認しました。着脱の衣服がそのままであったり、引き出しが空いたままなのは生活感もあり微笑ましくも感じるのですが、埃を含めティッシュペーパーを刻んだようなものが床に散っていたのは衛生面で課題です。	家族アンケートにも要望がありましたので、居室清掃の頻度について取り決めに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の力で出来るよう環境を設定したり、準備する。		